

Title	福岡歯科大学咬合修復学講座口腔インプラント学分野の 現況
Author(s)	松浦, 正朗
Journal	歯科学報, 110(3): 294-296
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10130/1689">http://hdl.handle.net/10130/1689</a>
Right	

東京歯科大学創立120周年記念記事  
「継承と発展」—各界の卒業生に聞く—

福岡歯科大学咬合修復学講座  
口腔インプラント学分野の現況

松浦正朗

昭和46年卒業

福岡歯科大学咬合修復学講座口腔インプラント学分野 教授

私は1971年3月に東京歯科大学を卒業し、同年4月から東京医科歯科大学歯学部第一口腔外科学教室に入局し、上野正教授のもとで3年間研修をしました。1974年4月に同じ医局の先輩であった瀬戸皖一先生が鶴見大学歯学部口腔外科学第一講座に助教授として赴任される際に、助手として採用され、以後、1998年10月まで瀬戸教授の講師、助教授として約24年間、勤めました。その後、余暇に趣味でやっていた口腔インプラント治療が生かされて福岡歯科大学へ赴任しました。そのような経緯で福岡歯科大学に口腔インプラント科が新設されたのは私が教授として赴任した1998年11月ですが、実際にインプラント診療が本格的に開始されたのは診療スタッフが揃った1999年4月からです。人員定数は教授1、助教授1、講師1、助手1でしたが、最初は教授1、助教授0、講師2、助手1、研修医1でスタートしました。

2002年3月から大学の機構改革で大講座制に移行し、その際、口腔インプラント科は診療科から咬合修復学講座の口腔インプラント学分野として改編されました。大学院は2000年に臨床研修医が補綴学講座の枠で入学し、2001年も同様の扱いで1名入学しましたが、2002年からは正式に口腔インプラント学分野の大学院生として入学しています。

当分野の目新しい点は咬合修復学講座の中で口腔インプラント学分野が、有床義歯学分野、および冠橋義歯学分野と対等な比重で教育、研究、診療を担っている点です。多くの大学病院の口腔インプラント科は関連各科からの出向で、かつインプラント治療を独占しているところが多いですが、本学ではこれからの歯科界での歯科インプラント治療の普及

を念頭に置き、より多くの大学内の歯科医師がインプラント治療学を学べるよう、学内の歯科医師に広く門戸を開いています。現在、補綴2科、歯周病科、総合歯科の医局員もインプラント症例検討会に参加し、自分の症例を提出し、治療計画と診断のチェックを受け、インプラント治療を行っています。

現在、インプラント学分野では、インプラントの埋入、骨増量手術、などのインプラント関連手術を含めると年間350例余りの手術を行い、500本以上のインプラントを埋入しています。

主たる研究テーマはマイクロインプラントを用いた周囲骨組織の形態学的研究、感染インプラントへの対応に関する研究、ジルコニアインプラントの開発、CAD/CAM サージカルガイドの各種手術への応用、まばたきするエピテーゼの開発、などです。

口腔インプラント学の卒前教育にも力を入れてきました。1999年からカリキュラムを作成し、毎年改編を行ってきました。2003年から実習を取り入れ5学年前期に口腔インプラント学基礎実習を行っています。現在、5学年前期に講義を80分で15回、並行して96名の学生を9組に分けてそれぞれ2日間で480分の口腔インプラント学基礎実習を行っています。また15回の講義の2コマはコンピュータソフトを用いたインプラント手術シミュレーション実習に当てています。

国際交流としては、首都医科大学附属北京口腔医院口腔インプラントセンター(主任：譚包生教授)、北京大学口腔医学院口腔インプラントセンター(主任：林野教授)、上海交通大学口腔医学院口腔インプラントセンター(主任：張志勇教授)、浙江大学口

腔医学院口腔インプラントセンター(主任：王慧明教授)，南開大学附属天津口腔医院国際医療センターインプラント科(主任：張健主任医師)，韓国翰林大学医学部口腔顎顔面外科(主任：Park Jun-woo 教授)などと毎年学術交流を行っています。特に首都医科大学の譚包生教授とは2001年から毎年8月に北京日中口腔インプラントセミナーを開催してきましたが、現在は北京市口腔インプラント学会と共催の学会へと発展しました。韓国翰林大学の Park Jun-woo 教授、Choi Dong-ju 教授とは Pan-pacific Implant Society の学会を共同開催してきました。Pan-pacific Implant Society の第4回および第6回の学術大会は福岡で開催しました(図1、図3)。今年6月には中国浙江大学王慧明教授が会長となり、第9回の大会を杭州市で開催します。北京大学とは毎年人的交流を行っており、相互に訪問して学会発表、共同研究も行っています(図2)。

国内では東京歯科大学口腔インプラント学講座の矢島安朝教授、水道橋病院の関根秀志准教授と緊密な交流があり、教育に対する意見交換や共同研究も行っています。また九州域内の5大学は口腔インプラント学教育担当者が定期的集まり、共通のシラバスの原案を作成し、このシラバスをもとに教育を行っています。さらに日本歯科大学新潟歯学部渡邊文彦教授、広島大学赤川安正教授、大阪大学矢谷博文教授と協力して口腔インプラント学の教科書を編



図2 北京大学口腔医学院訪問(2006年8月撮影)  
前列左から邱立新教授、野村隆祥先生、王興教授(現中華口腔医学会会長)、松浦、張震康名誉院長、俞光岩教授(前院長)、馬緒臣教授、右から2人目：王篤医師

纂し、九州5大学の教育研究会でも教科書を編纂しました。

当分野には福岡歯科大学のみならず、他大学出身の九州地方の開業医、勤務医、さらには少数ですが、中部、関東地方の勤務医、開業医が約60名、研究生として籍を置いています。これらの先生は主として日本口腔インプラント学会専門医および指導医資格の取得を目指して勉強を続けています。現在までに2名が口腔インプラント学会の指導医資格



図1 第4回 Pan-pacific Implant Society 学術大会(2005年11月)

下段左から譚包生教授(首都医科大学附属北京口腔医院インプラントセンター)、Dr. Choi Yong-chang(ロマリンダ大学)、松浦、邱立新教授(北京大学口腔医学院インプラントセンター)、佐藤博信教授(福岡歯科大学冠橋義歯学)、Dr. Tsai Yi-min(台湾大学歯周病科)、高橋裕教授(福岡歯科大学有床義歯学)、城戸寛史准教授(福岡歯科大学口腔インプラント学)

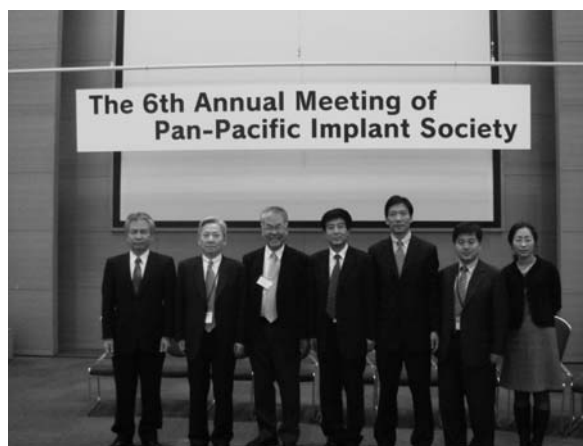


図3 第6回 Pan-pacific Implant Society 学術大会(2007年11月)

左から高橋裕教授(福岡歯科大学有床義歯学)、Park Jun-woo 教授(翰林大学口腔顎顔面外科)、松浦、Lin Ye 教授(北京大学口腔医学院インプラントセンター)、Wang Huiming 教授(浙江大学口腔医学院インプラントセンター、現院長)、Choi Dong-ju 教授(翰林大学口腔顎顔面外科)、Di Ping 医師(北京大学口腔医学院インプラントセンター)

を、14名が専門医資格を取得しており、九州地域の今後のインプラント学会を主導していく人材を養成しています。

今後も教室員とともに学生、および九州、あるいは全国の歯科医師の口腔インプラント診療と教育にできる限りの貢献をしたいと考えています。

図4は2009年2月から3月にかけて浙江大学口腔インプラントセンターから短期研修で福岡歯科大学に來学した朱麗琴先生と教室のスタッフです。



図4 浙江大学口腔医学院朱麗琴先生(下段中央)の研修來学記念に撮影した教室員集合写真(2009年3月撮影)

#### 《構成人員》(2010年4月～)

教授：松浦正朗，准教授：城戸寛史，  
 講師：山本勝己，助教：加倉加恵，森永健三  
 医員：林 秀樹，福谷能史(美容医療センター  
 配属)，添島賢一，稲葉 智，森山貴仁，  
 岡野友香  
 大学院生 5名，専攻生 5名，研究生 62名

#### 《口腔インプラント学分野の業績》

(1998年11月から2010年3月まで)

学術論文 76編，著書 33編，総説・翻訳 58編  
 学会発表 571，国際学会，国内学会での特別講演・シンポジウム 53  
 その他の講演 209